

市政ニュース

豊岡KODOMOラムサール交流会を開催しました 条約湿地登録に向けネットワークの形成を

2月21日と22日の2日間、「豊岡KODOMOラムサール交流会」を開催しました。

この行事は、昨年10月、韓国の第10回ラムサール条約締約国会議に合わせて行われた「KODOMOラムサールin韓国」に参加した鳥取県中海、滋賀県琵琶湖、豊岡の子どもたちが再会し、さらなる交流を深めるために開催したものです。

21日 現地見学

コウノトリ野生復帰や湿地保全の取組みの現場を訪れました。整備中のハチゴロウの



▲中海・琵琶湖の子どもたちの取組み発表

戸島湿地では、工事前に一時捕獲していた魚を再び放流する作業を手伝いました。

22日 交流会

日本で既にラムサール条約登録湿地となっている中海と琵琶湖の子どもたちが、それぞれの現状と取組みを紹介。湿地を守っていくことの大切さを豊岡の子どもたちに訴えました。

琵琶湖の子どもたちからは、2月18日に初めてコウノトリが飛来してきた状況が発表されました。そのコウノトリが、昨年、戸島湿地から巣立った1羽だと分かり、遠く離れた地域とも自然はつながり合っているということを感じとりました。

交流会で子どもたちが作ったメッセージフラッグ「ラムサールコウノトリ」は、3月末までコウノトリ文化館で展示しています。

三方地区公民館に県民交流広場を開設しました 地域のにぎわいの拠点に

2月26日、三方地区公民館（日高町栗山）に県民交流広場が完成し、三方地区関係者や行政関係者が集まり、完成披露式典を行いました。

これは、県の県民交流広場事業の補助を受け、事務室を移転増築し、そのスペースを交流広場として整備し、併せて調理室を改修したものです。今後、子どもたちをはじめ多くの人が集い、公民館事業などの取組みが活発に行われることが期待されます。



▲オープンを祝って「三方小唄」を踊る保存会の皆さん

福井県越前市の皆さんが視察来市 コウノトリ野生復帰の取組みなどを学びました

2月26日、かつてコウノトリ（武生）が飛来した福井県越前市から、奈良俊幸市長をはじめ、白山地区・坂口地区の皆さん18人がコウノトリ文化館などを訪れ、コウノトリ野生復帰の取組みや農業・化学肥料に頼らないコウノトリ育む農法を学びました。

同地区の農家は何度も豊岡を訪れ、コウノトリの飛来を期待して「コウノトリ呼び戻す農法」などを実践しています。

当日は、三方小唄保存会の皆さんが、「三方小唄」を踊り、オープンを祝いました。

まず、松島コウノトリ文化館長が、武生が産んだ115の卵から雌1羽と4羽の孫が誕生し、そのうち2羽が平成19年に放鳥されたことなどを説明。その後、中貝市長と意見交換を行い、コウノトリ育む農法に取り組みむ市内の農家からも説明を受けました。

越前市の皆さんは「武生の孫が越前市に飛来してくれるよう、環境にやさしい農法を頑張りたい」と話されました。

主な市政の動き

【2月】

12日・百合地区の人工巣塔にコウノトリの卵6個を確認

20日・日本ジオパーク認定証交付式・日本ジオパーク委員会設立記念式典（東京都）

21日・豊岡KODOMOラムサール交流会（22日）

22日・とよおか津居山港かにまつり

26日・三方県民交流広場完成披露式典

28日・福井県越前市視察来市・東井義雄賞「いのちのこ」とば「入賞作品発表会・記念講演会」

【3月】

2日・第2回市議会定例会開会（26日）

・定額給付金・子育て応援特別手当実施本部開設

4日・白いポスト設置式
12日・定額給付金・子育て応援特別手当申請受付開始

白いポストを市内全地域に設置しました

青少年を有害環境から守るために活躍します

3月4日、白いポスト（有害図書・DVDなどの回収ボックス）の設置式を日高総合支所前で行いました。

このポストは、但馬信用金庫が運営している（財）たんしん地域振興基金の助成を受けて設置したもので、今回は竹野・日高・但東総合支所前の3カ所に新規に各1基設置



▲竹野総合支所前の白いポスト

し、瀬戸区公民館前の古いポストを更新しました。

2年前にも「豊岡こうのとりのライオンズクラブ」から寄贈を受けるなどして、市役所前など5カ所に設置しており、今回のものを含めると、市内で合計8カ所の設置となりました。

式には、豊岡市青少年補導委員ら関係者が出席し、同委員協議会会長の藤原恵弘さんは「補導委員の組織も市内全地域に拡大しつつあります。白いポストが市内全地域に設置できたことは、青少年の健

全育成活動の大きな弾みになり、喜んでいます」と話しました。

青少年の健全育成を推進するため、市民の皆さんの理解と協力をお願いします。



▲設置式に出席した関係者

豊岡健康福祉センターにオストメイト対応トイレを整備しました

障害のある方の社会参加を積極的に支援

用できるよう「お湯」や「シャワー」、「水せっけん」といっ

た必要なものも配置しています。

市では、豊岡健康福祉センター（城南町）1階の身体障害者用トイレにオストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）対応トイレを整備しました。

これは、オストメイトの社会参加や福祉向上を目的として、障害者自立支援特別対策事業により整備したものです。障害のある方が安心して使



▲オストメイト対応のトイレには、このマークが付いています



▲オストメイト対応トイレ

中見市長の徒然日記 ⑮

学校給食、全部ご飯に

新田プロジェクトEの児童生徒が市長室にやって来たのは、平成19年3月のことでした。コウノトリ育む農法のことを学んだ子どもたちは、その農法が広がれば広がるほど豊岡の環境が良くなることを知りました。広げるにはどうしたらいいのだろうか？ そうだ、消費を増やせばいい。

ふと見ると、学校の近くにコンビニがありました。子どもたちはコンビニを訪れ、自分たちの主張を書いた画用紙を見せながら、店長に訴えました。「お店で売っているおにぎり、コウノトリのお米にしたいだけませんか」

残念ながら、願いはまだ実現していません。しかし、子どもたちはあきらめません。次は学校給食だ。誰に頼んだらいいのだろうか？ 市長だ！

子どもたちは、自分たちでアポを取り、自分たちだけで市長室にやって来ました。

私は、その論理と行動力に感動し、検討を約束しました。

当時、学校給食は、9千人を対象に、週4日、地元産コシヒカリを使っていました。その内2カ月に3日の割合なら、他を節約すれば、割高なコウノトリのお米に変えても給食費を値上げしなくても済むことが分かり、コウノトリご飯が始まりました。

そして、今年1月。私たちは、コウノトリのためにいただいた基金の使い道を検討していました。そのとき、子どもたちのことを思い出したのです。学校給食を5日ともご飯にしよう。その内1日はコウノトリのお米にしよう。費用が高くなる分は基金の一部を使わせていただく。

子どもたちの行動がきっかけで、コウノトリご飯、茶碗34万杯、育む農法の水田が7ヘクタール、新田小のグラウンド8個分増えることになりました。コウノトリも大喜びだよ、きっと。

